

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3301号 2016.10.11 発行

健康医療で関西復権 吹田操車場跡地の大規模開発 大阪日日新聞 2016年10月10日

巨大貨物ターミナルの旧国鉄吹田操車場跡地を健康医療都市に再生する大規模開発の詳細が鮮明になってきた。2018年に第1期工事が完成する分譲マンション事業者の近鉄不動産は、同時期に開設する国立循環器病研究センター（国循）と連携した入居者の健康管理システムを発表した。健康寿命の延伸に主眼を置いた都市の形成は、地盤沈下が懸念される関西復権の鍵を握りそうだ。



健都のマンションに導入される健康管理システム

吹田操車場跡地で開発が進む健都=4日、吹田・摂津両市境界付近

### ■アドバイス

1923年に開業した吹田操車場は「東洋一の規模を誇る物流拠点」と称された。しかし、道路網の発達を背景に役割を終え、現在は大阪府と地元の吹田、摂津両市などが「北大阪健康医療都市（健都（けんと）」として開発を進めている。その総面積は30ヘクタールだ。



居住エリアで近鉄不動産などの共同事業者が着工したマンションの規模は824戸。NTT西日本とドコモ・ヘルスケアが参画した健康管理システムは、入居者が手首に巻くバンドに歩数、移動距離、消費カロリー、睡眠時間などが蓄積され、そのデータを居室のテレビ画面に表示することで認識できる。さらにデータを基に国循が健康アドバイスする仕組みで、近鉄不動産の大石浩一マンション事業部長は4日のモデルルーム内覧会で「生活習慣病の予防効果は高い」と話した。

健康医療をコンセプトにした健都には国循と吹田市民病院の移転建て替えに併せ、健康医療関連業界の研究機関を誘致する計画もある。さらに政府が移転方針を示した国立健康・栄養研究所（東京都）の受け入れを想定しており「医療クラスター（集合体）として成長させる」（大阪府幹部）意向だ。

健康医療をコンセプトにした健都には国循と吹田市民病院の移転建て替えに併せ、健康医療関連業界の研究機関を誘致する計画もある。さらに政府が移転方針を示した国立健康・栄養研究所（東京都）の受け入れを想定しており「医療クラスター（集合体）として成長させる」（大阪府幹部）意向だ。

### ■模範都市

企業の本社機能流出、生産拠点の海外シフト、成長産業の欠如…。3日の関西経済連合会創立70周年記念式典で、関西の懸念材料に言及した政府関係者がオール関西の対応に期待を寄せたのに対し、関経連の森詳介会長は産業育成として健康医療の分野を真っ先に挙げた。

折しも、大阪府が2025年国際博覧会（万博）の誘致に掲げたテーマも「人類の健康・

長寿への挑戦」であり、前出の政府関係者は「地域経済を活性化する絶好の機会」と評価していた。万博誘致を巡っては財源見通しや経済効果の議論が不可欠であり、誘致実現は見通せないとはいえ、健康医療の都市形成や産業育成が関西復権の鍵を握ることは間違いない。

その意味でも、時代の変遷を映し出した吹田操車場跡地に誕生する健都は注目に値する。「世界的な模範都市になるというスローガンがある」（大石氏）健都の完成は2～3年先。世界の衆目を集める20年の東京五輪・パラリンピック開催前である。

### 【きょうの人】ノーベル賞「関心高める機会に」 児童労働撲滅目指す平和賞の人権活動家 カイラシュ・サトヤルティ氏（62）

産経新聞 2016年10月9日

児童労働撲滅に力を尽くす2014年ノーベル平和賞受賞者のカイラシュ・サトヤルティ氏＝東京都千代田区の「庭のホテル」



女子教育の権利を訴えるマララ・ユスフザイさん（19）とともにノーベル平和賞を受賞して2年。「忙しくなったが、それは児童の権利に対する関心が高まっているということ。ノーベル賞受賞者として、各国の首脳や高官にも会えるようになりました」

通っていた学校の前で靴磨きをしていた親子に会い、恵まれている自分との差にショックを受けた。その原体験から、人身売買で強制労働に従事する子供たちを救い出す活動を始めて35年。ノーベル賞受賞で世界的な関心が高まる中、母国のインドでは青少年を守る法律が強化され、罰則も重くなるなど成果が出つつある。解放された子供が社会復帰できるよう教育や仕事の斡旋（あっせん）も行われるようになった。

柔らかな物腰に穏やかなほほ笑み。児童の救出活動を続ける中で何度も襲われた経験を持つが、「子供たちを守ることに大事なものがありますか」と強い信念は揺るがない。世界を飛び回り、子供たちが自由に生きられる活動の連携を図る。日本の状況についても「虐待やいじめがあると聞いている。子供たちが安全な社会とは言い切れない」と楽観していない。

欧州連合（EU）離脱を選んだ英国、反移民政策を訴える大統領選候補者に一定の支持が集まる米国。“内向き”になる世界に警鐘を鳴らす。

「あらゆる問題は孤立しては解決できない。国際社会の一員であるという意識を持ち、責任感を共有してほしい」

今年もノーベル賞受賞者が誕生している。受賞により高まった関心を武器に、先輩受賞者は世界中を走り回っている。（道丸摩耶）

### なぜブラジルは成功したのか 取材記者が見た「秘密」、東京へのヒントに

産経新聞 2016年10月10日

カンボグランジ障害者センターでリハビリを行う入所者の男児。複数の専門家が常駐している＝リオデジャネイロ



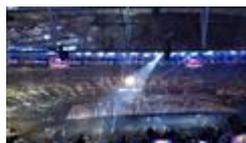
9月7日（日本時間8日）から12日間の日程で開かれ、かつてないほど高まった競技性によって地元の大人から子供まで誰もが熱狂したリオデジャネイロ・パラリンピック。4年後の東京大会に向け、さらなる祭典の発展への期待を関係者らに抱かせる大会となった。メダル総数は24個と前回のロンドン大会を上回ったものの金メダルがゼロに終わった日本に対し、開催国のブラジル

は金14個を含む72個のメダルを獲得し、国別ランキングでも5位に躍進した。躍進の

理由はどこにあるのか。大会取材を通して、東京に向けた日本の課題を考えた。(川瀬充久)  
**障害者スポーツへの厚い支援**

リオデジャネイロ郊外にある市立カンボグランジ障害者センター。10畳ほどの部屋にマットを敷いた簡素な練習場で、障害を持った少年少女らが柔道の練習をしていた。指導するのは、障害者スポーツやリハビリの専門知識のある職員ら。ぎこちない動きながらも、誰もが筋力トレーニングや投げ技の練習に一心不乱に取り組んでいた。

この施設は、市内6カ所にある市が運営する障害者施設の一つで、いずれの施設にも、障害者について知識や経験の豊富な職員が常駐。スポーツを通じたリハビリが積極的に行



われている。  
入所者は約  
600人。リハ  
ビリ施設のほ  
か、バスケット



コートや柔道場、バレエの練習場な  
どがあり、子供たちは早ければ3歳くらいからスポーツに

取り組む。リハビリの一環として行われるスポーツ指導だが、子供が特別な才能を見せれば、市から州に報告が上げられ、より高度なスポーツ教育を受けられる仕組みがリオデジャネイロ州にはあるという。

障害者スポーツに対しては、リオだけでなくブラジル全体が手厚い支援を行ってきた。

2001年に政府は宝くじの売り上げの2%をオリンピック委員会とパラリンピック委員会に割り当てる法律を制定した。オリンピックイヤーの2016年には2.7%に引き上げ、さらにパラリンピック委員会への配分比率も引き上げている。

障害者スポーツに出資した企業への税制優遇措置などもあり、こうした行政の手厚い支援が選手強化につながった。その中で、「障害者水泳のフェルプス」の異名をとり、リオパラリンピックでも4個の金を含む9個のメダルを獲得したダニエル・ディアスといったスター選手も生まれた。

「障害者は社会的にも、経済的にも負担がかかるのが現実」。リオデジャネイロ市障害者局のカルロス・アルベルト・ホッシャ局長はこう話す。

「だが、パラ選手になって人生を変えることもできる。誰でもパラリンピック選手を目指せるということを知らめたい」

### 草の根からトップ選手へ

こうした草の根レベルからのトップ選手育成システムは、特に競技人口の少ない障害者スポーツでは不可欠だ。

国別のメダルランキングで、トップの中国、2位の英国といったパラリンピック大国に次ぐ3位となったウクライナ。2位争いを演じた英国のBBCは「ウクライナの成功の秘密は？」と題して、関係者のインタビューを報じた。

それによると、ウクライナ国内ではすべての地域に、障害者スポーツのための学校や施設が備えられており、それが成功につながっているという。「100人がリハビリをすれば、5人は水泳やサッカー、体操に優れた人が見つかり、機会を提供する」と関係者は話す。

日本はどうか。日本でも障害者スポーツの拠点はある。

昭和49年、日本で初めて障害者専用のスポーツ施設としてつくられた大阪市住之江区の市長居障害者スポーツセンター。利用者は右肩上がりが増加しており、昨年は延べ約3万7千人が利用した。特に最近は知的障害者の利用が増えているという。

トレーニング施設や、車いすバスケットなどができる体育館、プール、アーチェリーができる屋外練習場などがある。

館長の三上真二さん(53)は「障害者は運動がしたくても、なかなか外に出にくい。スポーツを通して社会生活が歩めるようにするのが目的」と話す。

ただ、学校体育が中心の日本では、特別支援学校では教員によるスポーツ教育が行われ

るものの、一般の学校では見学になることがほとんど。なかなか選手層の拡大に結びついていないのが現状だ。

### 上位国には元兵士も

ランキング上位の国の内情を改めて見ると、複雑な事情ものぞく。

2013年の世界保健機関（WHO）のデータでは、ブラジルでの交通事故死者は人口10万人中23・4人にも上る。地元紙によると、約280人のパラリンピック選手のうち、少なくとも50人が交通事故が原因で障害を負ったという。

元車いすバスケット日本代表監督の高橋明氏は、日本の障害者スポーツの競技人口の減少について「交通事故が大きく減少したことが一因」と指摘する。

また、国別メダルランキング4位だった米国をはじめ、リオ大会には十数カ国が兵士を選手として派遣したが、こちらも日本には縁遠い話だ。

米軍のニュースサービスによると、大会に参加した約20人の兵士、退役軍人はアフガニスタンやイラクなどで戦闘や爆発に巻き込まれ、足を失うなどしたといい、米国では湾岸戦争や同時多発テロ以降、こうした選手が増加傾向にある。

「この4年間で競技レベルは大きく上がったと感じた」「ノーチャンスだった」。メダルを逃した日本人選手はこう漏らした。一部の競技では五輪に迫る記録も出るなど、パラリンピックの競技性は飛躍的に高まっている。

「メダルを獲得することは誰にでも分かりやすい。きっと障害者理解にもつながる」。リオパラリンピックで取材した障害者スポーツの選手や競技団体の関係者は、メダル獲得の意義について声をそろえた。

わずかな可能性をいかにすくい取り、トップレベルに押し上げるか。ブラジルの成功例を参考に、育成システムの確立が求められている。

### 顔面火あぶり、監禁、踏みつけ…「邪魔な存在」3歳児を不条理な死に追いやった虐待地獄 救える命救う仕組みを 産経新聞 2016年10月10日



3歳男児に対して日常的に激しい暴行を加えていた養父と実母。ときには顔面をライターであぶり、浴槽で後頭部を踏みつけていた。2人は傷害致死など3つの罪で起訴されたが、救える命を救う仕組み作りが求められている

顔をライターであぶり、浴槽で後頭部を踏みつける一。堺市堺区のマンションで昨年6月、当時3歳の男児が意識不明となり死亡した事件。傷害致死など3つの罪で起訴された両親が、男児に対して日常的に激しい暴行を加えていた実態が明らかになった。「養育が困難」として一時は児童相談所（児相）に預けた男児を自らの意思で引き取ったにもかかわらず、「邪魔な存在」と疎んじて凄惨（せいさん）な虐待を繰り返した末、死亡させるというショッキングな内容に、社会は震撼（しんかん）した。明らかに「子育てをしてはいけない親」をどう見抜き、子供を守るべきなのか。事件から教訓をくみ取り、社会全体で救える命を救う制度を整える必要がある。

「いつの傷か記憶ない」

「何度もたばこを押しつけたり、ライターであぶってやけどを負わせた。これまで何度もやったので、どれがいつの傷かは記憶がありません」

長男の常峰英智（つねみね・えいち）ちゃんの顔や腕など12カ所に全治1カ月のやけどを負わせたとして今年9月、傷害容疑で大阪府警に再逮捕された養父のアルバイト、常峰渉（わたる）被告（32）は、こう供述した。

英智ちゃんは昨年6月15日未明、自宅マンションの浴槽から心肺停止の状態で緊急搬送され、3日後に死亡した。司法解剖の結果、死因は低酸素虚血性脳症で、全身にはやけどを含む30カ所以上の傷があった。

府警は今年7月、英智ちゃんを浴室に閉じ込めたとする監禁容疑で、涉被告と実母の美香被告（23）を逮捕。翌8月、浴槽で英智ちゃんの後頭部を足で踏んで水没させ殺害したとして殺人容疑で両被告を再逮捕したが、殺意の立証には至らず、傷害致死罪で追起訴された。

その後、罪自体は軽い傷害容疑で9月に再逮捕するという異例の展開をたどったのだ。

府警は、わが子の顔をライターであぶるという信じがたい行為の悪質性を際立たせるため、2人の立件に踏み切ったとみられる。英智ちゃんの死への関与はかたくなに否定していた美香被告も、傷害容疑については「頬にライターを使ってやけどをさせた」などと素直に認めた。

両被告はその後、傷害罪でも起訴された。

「なんで子供にこんなことができるのか。思い出だけで夜も寝られない」。ある捜査員は、怒りで声を震わせた。

### 複雑な環境環境

府警によると、涉被告は英智ちゃんについて「邪魔な存在だった」と供述。美香被告も「どうでもいい存在だった」と、自分の腹を痛めて産んだとは思えない発言をしていた。

こうした伏線ともいえるのが、美香被告の連れ子だった英智ちゃんをめぐる複雑な生育環境だ。

英智ちゃんは平成24年7月、美香被告の親族が「堺市子ども相談所」（児相）に「養育が困難」と相談したのを受けて、生後約3カ月で児童福祉施設に入所。その後、美香被告は涉被告と結婚し、1年後の25年7月に「（英智ちゃんを）引き取って育てたい」と児相に申し出た。

面接などを重ねて昨年3月下旬、英智ちゃんは両親と一緒に生活するようになったが、1カ月後の4月下旬、英智ちゃんが通う保育園から「顔にひっかき傷やあざがある」と通報があり、児相は再び英智ちゃんを保護した。

だが、2人は強硬に虐待を否定。医師も両親の説明と傷に矛盾はないと判断したため、5月中旬に英智ちゃんを自宅に戻していた。

虐待はこの直後からエスカレートしたとみられ、事件の約2週間前の6月初旬には「やけどの痕がある」と再び通報があった。児相職員が家庭訪問したが、2人は「自分で壁に頭をぶついたり、遊具から落ちたりした」と主張。やけどについても「料理中にてんぷら油がはねて当たった」と説明した。

### 周囲に「子煩悩」装う

ただ府警によると、事件直前の6月6日以降、自宅マンション近くの防犯カメラには英智ちゃんの姿は一切写っておらず、自宅で監禁状態だった可能性がある。両被告はこの間、2人の実子である長女（3）と3人で食事に出かけていたこともあった。

一方で英智ちゃんの死亡後、2人は周囲に対し、自分たちは「ぬれぎぬを着せられた子煩悩な被害者」だと訴えていた。

逮捕前の今年1月、産経新聞の取材に応じた美香被告は、「保護される度に英智はパパ（涉被告）と距離を感じてしまい、なつくのに時間がかかった。児童相談所に『虐待はなかった』と書面で回答してくれとお願いしたが、聞いてもらえなかった」と、児相への不満をあらわにした。

さらに、英智ちゃんが買ったばかりの服を着てポーズをとっている写真が掲載された子供服店のブログがあると明かし、「妹（長女）の分も合わせて40着ぐらい買い、8万～9万円かかった。かわいがるつもりがないなら、わざわざ施設から子供を引き取ったりしない」とアピール。涉被告も「血がつながっていないから虐待を疑われるのは偏見だ」と語気を強めた。

### 児相の仕組み改善を

事件をめぐるのは、保育園から児相に通報が複数回寄せられ、何度も児相職員が英智ちゃんや両親に接触していたことから、児相が「救える命を救えなかった」と批判を浴びた。

堺市は「子ども虐待検証部会」を開き、再発防止に向けた検証を始めている。

2人が英智ちゃんと一緒に暮らしていたのは計2カ月間に過ぎない。府警幹部は「保護されたときにそのまま施設に預けておけば、命は守られたはず。育てる気がないのに、なぜわざわざ自ら英智ちゃんを引き取ったのか」と首をかしげる。

一方、児童虐待問題に取り組む関係者は「虐待をする親が執拗（しつよう）に子供を自分の手元に置こうとするのは、決して珍しい行為ではない」と明かす。

「子を虐待する親は精神的に不安定で、親という役割を実感することで心の安定を図ろうとする人もいる。子供を見相に保護されると『親失格』の烙印（らくいん）を押されたように感じ、強く反発してしまう」。関係者はこう解説し、「見相は保護解除後も家庭訪問だけでなく、子育ての様子を長時間観察し、間違っていることを細かく丁寧に教えてあげるなどの手厚いアフターケアをする必要がある」と訴える。

見相の所長経験もあるNPO法人「児童虐待防止協会」（大阪市）の津崎哲郎理事長は「日本では見相が子供の保護と親の指導という両方の役割を担っているが、アメリカでは行政と裁判所でその役割が分担されている」と、日本の見相が抱える制度的な問題を指摘。「子供を保護すれば親から反発される可能性は高く、この2つの役割を両立させるのは難しい。制度の改正を社会全体で本格的に議論する必要がある」と話している。

## 介護職員の負担、どう減らす？ 助手導入や職員に段位も 水戸部六美

朝日新聞 2016年10月10日

利用者の歯ブラシを並べる介護助手の中村久美子さん＝津市（画像の一部を加工しています）



慢性的な人材不足に悩む介護現場で、介護職員の負担を減らしたり業務を評価したりする取り組みが広がっています。職員の待遇を改善して、職場から離れていくことを防ごうという試みです。



### ■人材不足解消へ待遇改善策

津市の介護老人保健施設「いこいの森」。流し台の前で、中村久美子さん（68）がタオルの上に利用者の歯ブラシを並べていた。誰のものかすぐに分かるよう、柄の部分に書かれた名前を上にして置いていく。「こうしておく、介護職員さんがすぐに口腔（こうくう）ケアに入れるんです」

元看護師の中村さんは「介護助手」として働いている。介護職員に代わり、利用者の水分補給やシーツ交換などを担う。時給870円で、週3回3時間程度ずつ働く。

「体力的に本格的な介護はきついけど、助手なら看護師の経験も生かせると思った」

この仕組みは、施設長で三重県老人保健施設協会長の東憲太郎さん（63）が発案した。介護職員の仕事ぶりを観察したら、残飯処理や換気といった専門性がなくてもできる仕事にも追われていることに気付いた。一方、施設近くにある団地には「定年退職後、何か社会貢献がしたい」という人が多くいた。

そこで、昨秋に未経験者でも働けるよう難易度別に分けた三つの業務を県内のほかの施設と同時募集したところ、251人から応募があり、57人を採用した。いこいの森にも7人が採用された。

効果はすぐに表れた。

## 英国発、がんのケア施設オープン 患者や家族を癒やす場に

共同通信 2016年10月10日

がん患者や家族が気軽に立ち寄り、闘病中の悩みを看護師や心理士に無料で相談できる施設「マギーズ東京」が10日、東京都江東区にオープンした。英国で誕生し、広がっているがんのケア施設がモデルで、日本では初めて。寄付金を基にNPO法人が運営する。

同日の開館式典では、秋山正子センター長（66）が「患者や家族が気軽にサポートを受け、力を取り戻すことのできる場所にしたい」、20代でがん闘病経験があるNPO共同代表の鈴木美穂さん（32）が「死ぬことばかり考えていたあの頃に、こんな施設があったら良かったと思える場所」とそれぞれあいさつした。



知れば納得 イマドキ育児  
佐藤千鶴さん

北海道新聞 2016年10月10日

昔と今ではかなり変わってきた乳幼児の育て方。孫に接したり、シルバー人材センターに登録して子どもの世話をするシニア層が戸惑うことも多い。訪問育児相談をしたり、孫との接し方を学ぶ「おまご講座」を開いている札幌の助産師、看護師の佐藤千鶴さん（40）に、昔とは違ってき

た最近の子育てのポイント聞いた。（編集委員 福田淳一）

### ■抱っこ 心の“栄養” たっぷりと

かつて赤ん坊は「抱き癖がつくので、抱っこしない方がいい」と言われた。この説は覆されたが、人々の記憶には残り、若い母親でも「抱っこはだめだと聞いたんですが」と心配する人がいるという。佐藤さんは「抱っこは双方が温かく幸せになる心の“栄養”です。可能ならたくさん抱っこしてください」と効用を説く。

その一方で「抱っこをしてあげられない時に赤ちゃんが泣いた場合は、『ちょっと待っててね』と声をかけてあげると大丈夫」とアドバイスする。そして赤ちゃんが泣いたら、おむつ交換、授乳、遊んでほしいといった何らかのサインであることを考えて、理由が少しずつ分かるようになることが大事だという。

### ■日光浴 日陰で外気浴 30分程度で

子どもの日光浴が勧められた時代もあったが、日に焼けるほどの日光浴は必要ないという。今は「外気浴」といわれ、短時間日光に当たったり、日陰で30分程度過ごすことが勧められている。

ただネットによる宅配が普及していることもあって、冬に子どもと自宅にこもりがちな母親もいるため、外気浴不足に注意が必要だという。

### ■スマホ ママの情報収集の手段

今の若い母親は育児を含めた情報の収集をスマートフォンに頼る例が多い。核家族化が進み周りに相談できる人が少なくなった背景もある。日々の育児記録をスマホを使って残す人もいるという。

シニア層にはわかりにくいのが、佐藤さんは「本を開いて活字で情報を得ると同様に、スマホで情報を集めている場合もあるので理解してほしい」と話している。

### ■口移し 虫歯菌うつす恐れも

かつてはリンゴなど硬いものを母親が口でかみ砕いて子どもに与えることがままあった。しかし、これでは虫歯菌を子どもにうつすことになりかねない。歯が生えてからは虫歯が



心配になってくる。自分が使ったスプーンで子どもに食べ物を与えることも控えた方がいいという。

「歯が生えたら1日1回、寝る前に歯磨きをする習慣をつけてほしい」と話す。

#### ■厚着 靴下は滑って転倒注意

シニア層で年齢が上になればなるほど、「風邪をひかせては大変」と乳幼児に厚着をさせる傾向があるという。住宅の暖房が十分でなかった時代ならともかく、今は住宅事情も改善された。暑さ寒さの感じ方は子どもによって違い、その子に適した着せ方が必要だという。

佐藤さんが指摘するのは、今の住宅は畳が減ってフローリングの床が多く、滑りやすい点だ。つかまり立ち、歩き始めの子は、靴下をはかせると滑って転びやすくなるので注意が必要だ。

#### ■「昔と比べて否定しないで」 佐藤千鶴さん

佐藤さんは孫のいるシニアの注意点として、例えばご飯の食べ残しなどで「うちの子でこんな例はなかった」と否定するのは若い母親を傷つけると指摘。その上で、孫と接することは「体力を使いますし気も張ります。そして大人と違った子どもとの対話で脳の活性化につながりますよ」と効用を語っている。

### 社説：労働経済白書／「誰もが活躍」を掲げるが 神戸新聞 2016年10月10日

雇用情勢は数字を見る限り、改善している。完全失業率は昨年度平均で3・3%と19年ぶりの低水準となり、有効求人倍率も同1・23倍と24年ぶりの高い水準だ。

しかし、働く意欲があるのに職に就いてない、いわゆる「潜在的労働力」は635万人もいる。一方、派遣など非正規で働く人のうち、希望する正社員になれない「不本意非正規」の人は315万人に上る。

本年度の労働経済白書はこうしたデータを示しつつ、「誰もが活躍できる社会の実現」を主題に掲げた。人口減、高齢化が進む中、日本の将来を左右する最重要課題と言える。あらゆる手だてを動員して、「働く喜び」を実感できる社会にしなければならない。

ただ雇用の「質」を見ると、現実はこの理想からはほど遠い。

働く意思と能力があり、求職活動をしながらも就職できない。こうした完全失業者は222万人に上る。さらに、職探しをしていないなどの理由で失業者として集計されていない就業希望者も413万人いる。

就職に結び付かない理由としては「希望する種類・内容の仕事がない」や「勤務時間・賃金が希望に合う仕事がありそうにない」などの回答が多かった。

こうした状況を改善するため、子育てなどの事情に応じて働きやすい環境が大切だと、白書は指摘する。具体策として、多様な労働時間の設定やきめこまかな求人・求職情報の提供、職場情報の見える化によるマッチング機能の向上などを挙げる。

しかし、問題の根は深く楽観はできない。不本意な非正規雇用は、就職の際の「希望」がかなわない現実を浮き彫りにする。暮らしを維持する必要性から非正規に就かざるを得ない人も少なくない。今回の白書は、増え続ける高齢者の就労が重要として、働きやすい環境の整備にも焦点を当てた。元気に働ければ医療費の削減とともに、消費にもプラスに働く。

気になるのは若者の雇用情勢だ。完全失業率の水準が最も高いのが男性の15～24歳だ。不本意非正規雇用も若年層に多い。

「限られた人材がその能力を發揮し、活躍できる社会を構築することが重要だ」と白書は言う。若者が希望を抱いて働く姿は社会を活気づけることを忘れてはならない。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も  
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

